

# 上田の杜

## 発足から三年 総括と課題

### 岩手大学ミュージアム

#### 解説ボランティアの会



会長 佐藤 喜範

ミュージアム解説ボランティアの会は三年目の活動を迎えています。この間大学から全面的な支援をいただいで、次のようなことができるようになりました。

一、春と秋に「市民との交流事業」を開催し、多くの市民をキャンパスに招き交流する行事が定着してきました。

二、解説希望の団体来館者には、きちんと対応できるようになりました。曜日班の編成で、迎え入れる体制も整備されつつあります。

三、自主的な研修会の月一回開催が定着し、解説レベルの向上を図ってきました。

四、「広報グループ」と「パソコングループ」による会報の発行など、会員の運営参画にも先進例が生まれましました。

こうした活動の前進はミュージアム解説ボランティア活動にたいする、学

第二号 (二〇〇六年七月二五日)

発行 岩手大学・岩手大学ミュージアム

解説ボランティアの会

編集 広報グループ・パソコングループ

(題字・挿絵 村谷公基)

内外の関心と認知度を高め、「岩手の大地と人とともに」をスローガンとした大学の「変革」努力への貢献にもつながっています。

力を合わせて、楽しい活動をさらに広めていくために、特に次のことに留意しましょう。

一、実際の解説の場に、積極的に出ていきましよう。

「果たしてうまく解説できるだろうか」の不安は、解説の場に出て、その積み重ねのなかで自信に変えていきましょう。曜日班にはとらわれず、各人ご都合のつくときにはミュージアム本館に出かけて、解説を大いに試みましよう。

二、グループ活動にも積極的に参加して、会の運営にそのお力を。

今年度は、「広報」「資料作成」「研修」「パソコン」「市民との交流事業」の五つのグループ編成で臨んでいます。ボランティア活動は受身ではなく、「自らの意思で」がキーワードでもありますから、ぜひ積極のご参加を。



## 今年も市民交流事業を 平成一八年度総会

岩大ミュージアム解説ボランティアの会の平成十八年度総会が四月二十二日、岩手大学図書館二階で開かれ、六十八人の会員のうち、四十七人が出席して、新年度の事業計画、予算を決めた。役員改選では、佐藤喜範会長を再選した。

総会は、佐藤会長のあいさつに続いて、野中正昭会員を議長に選出して議事が行われた。

十七年度の事業・決算報告では、十六年度を大幅に上回ったミュージアム本館入館者を迎えてのボランティアの活動や、市民との交流行事、全国規模の大学博物館との交流の様子などが報告された。

決算報告に関連しては大学からの「ボランティア活動支援事業費」について、第三期養成講座を終えた新会員の時から質問が相次ぎ、役員の間からは「充分説明したつもりだったが、少し足りなかったかな？次回からはもう少し、丁寧に説明しましよう」と、反省の声も。

今年度の事業計画は、昨年に引きつづき市民交流事業としてキャンパスツアーと農業教育資料館での上田の杜音楽会を行うことを決めた。

このうち今年度第一回目の賢治ツアーは五月二日に春バージョンとして行わ

れ、桜ツアーの後、農業教育資料館で上田の杜・春の音楽会が開かれ、好評を呼んだ。(二頁に詳述)

役員選任では、次の各会員が選出された(敬称略、かつこ内 再は再任・新は新任)

▽相談役 川村昌三(再)

▽会長 佐藤喜範(再)

▽副会長 姉齒武司(新)

佐藤文雄(再)

佐々木光枝(再)

▽事務局 小原紘一(再)

▽会計 柴田洋子(新)

▽幹事 阿部敏男(新)

川上雄司、高橋一雄、向井田郁子、若尾優子、(以上再)

▽監事 赤坂孝(新)

柴田旬弘(再)

## 秋田に学ぶ 博物館見学とガイド交流

岩大ミュージアム解説ボランティアの会では二月二五日、秋田県立博物館を訪れ、同館ボランティア、アイリスの会会員との研修・交流を行った。

見学風景



研修には藤田公仁子先生も同伴、会員二十四人が参加した。盛岡駅西通のマリオス前から東北自動車道盛岡―北上間、秋田自動車道北上秋